

# コロニアル(平面スレート瓦)屋根における問題点

- 1、築15年後の屋根は目視では分からないが下の様に棟部の下地を木材(この様に棟板が長い物はほとんど)で施工してあると長い間に吸い込んだ雨水により、木材が腐っています。  
但し、コロニアル施工の講習を受けている者が施工すると、木材を使用してもこの様にはなりません。  
(施工後に調べる場合は一部棟をはぎ取って調べなければなりません)



- 2、写真の様に若干色が薄くなると、皆さん塗装を行いますが無き間違い無く屋根の寿命を縮める事になります。塗装をしても表面が綺麗になるだけで、むしろ屋根の重ね部に塗装が入り込んで重ねに入った雨水が室内側に入ってしまう。但し、重ね部をロー塗り(刷毛塗り)事と重ね部の塗装の縁切を行う事によって(縁切用のスポンジを使用するのがベストです)雨水を流れやすい様に出来ます。

## 1、について

### 正式の施工方法

屋根葺き時に木材の当たる部分をカットして中に吸い込まない様にする。

木材にアスファルトフィングを敷き棟板(鉄板)からの結露が木材に触れない様にする。

木材とコロニアルの取合いには絶対にシーリング材等のコーキングを塗らない。(入った雨水が室内側に入ってしまう)



シーリングを塗った為に入った漏水の跡

シーリングの残り

屋根のカット不足部

木材のフィング敷き無し

などの影響で木材がぼろぼろになってしまう程雨漏りしてしまった。  
(屋根下の防水紙で室内には雨漏りとならなかったただけでした。)

## 2、について

### もっとも良いとされる方法

プライマー・下塗り・上塗りとも重ね部はローラーでは無く刷毛塗りをする。

全体をローラー塗りをしていたら、屋根の寿命を相当短くしてしまいます

### 絶対に駄目です

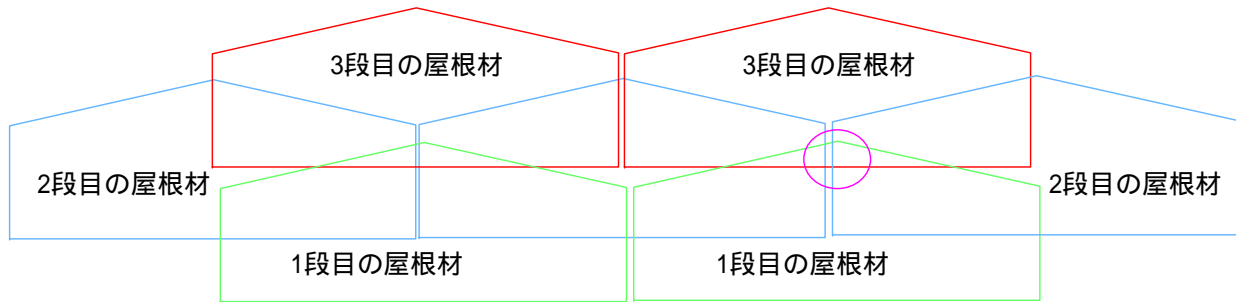
塗装終了後に必ず屋根材重ね部に入った塗装を縁切る。

屋根材重ね部の持続的な縁切の為にスパンサーを屋根材1枚に付1個(出来れば2個)取り付ける。

平形状の屋根材は必ず毛細管現象を起こします、しかも全部の重ね部です。

しかし漏らないのは板と板の隙間から出てくるからです。それを塗装で出来なくなるので、漏ってしまいます。もし漏ったからといって重ね部にシ-リング(コーキング)を塗ったものなら屋根下の防水紙でも対応出来なくなり室内に漏ってくるでしょう。

下の様に重ね葺きをしています。完全に重なっている部分は約5cmの紫色の部分のみです。



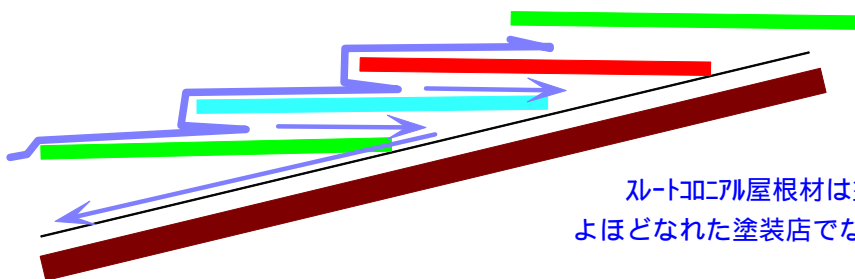
1枚目屋根材と2枚目屋根材重ね部の毛細管による吸い上げと各段の横突合せ部からの進入(極めて少量)により雨天時には常に雨水が入った状態になります。

下の図は横から見た物(分かりやすく隙間を開けています)

塗装をする事によって屋根材間の隙間が無くなり、毛細管現象が過剰に起こるようになります。

吸い込んだ雨水は屋材と野地(合板)間の防水紙の上を流れて行きます。防水紙が正常に葺いてあれば室内には入って来ません。しかし、入った雨水の湿気により合板が蒸れてぼろぼろになって行きます。

気が付かずに過ぎていくと野地までぼろぼろになり次回の改修では野地まで(更に垂木)取り替える事になります。



スレートコア屋根材は塗装をしない方が良いのです。  
よほどなれた塗装店でなければかえって家の寿命が縮みます

それから、コアはH14年前の施工ではアスベスト混入製品です。(施工時期・屋根材のアスベスト表示などで確認出来ます)今はアスベスト処理コストの点でスレートコアの上に鋼板製の屋根のかぶせる(シールド工法)方法が行なわれています。しかし、最終的に家の解体時にはアスベスト処理を行なう事になりますので費用面で相談が必要です。

無料相談に応じます

知事公認 山梨県板金組合加入

**桜田板金工業所** 許可番号(般-14)第4495

〒400-0422 山梨県南アルプス市荊沢208-25

055-282-1739 FAX055-284-1066

E-mail : sakurada@eps4.comlink.ne.jp

http://www.eps4.comlink.ne.jp/~sakurada/index.htm